令和2年度　宮城県仙台東高等学校　学校評価書

学　校　経　営　方　針

1．魅力と活力のある学校づくり

(1)教職員と生徒相互の信頼関係を礎に，生徒が本校の特色ある諸活動に主体的に取り組み，自己を確認して一人ひとりの自主性・自律性を高めさせることで逞しい成長に導く。

(2)生徒がグローバルマインドを持ち，自分と社会との関わりを捉えることで進路目標の達成に向けた強い意志を持つとともに，きめ細やかな指導を徹底して進路希望の実現を支援する。

(3)生徒が読解力を身につけるとともに論理的思考を意識することにより，将来に生きる学びの基礎力とし，一層の学力の伸長を導く。

2．協働の意識が高い学校づくり

(1)学校と家庭が連携し，生徒の自律性の育成と基本的生活習慣及び学習習慣の確立を図る。

(2)学校，家庭，地域の連携による防災・安全教育を推進するとともに，地域への積極的な情報発信により地域とともにある学校として確かな信頼を得る。

(3)教職員の協働を一層推進し，実践を共有して指導法の資産化を図る。

3．志教育を推進する学校づくり

(1)本県の志教育推進計画に基づき，以下の3点に重きを置いて取り組んでいく。
① 人と「かかわる」
② よりよい生き方を「求める」
③ 社会での役割を「はたす」

(2)校内外の様々な資源を活用し，変化の激しい社会環境の中で社会に貢献しようとする意欲を持った逞しい人の育成を目指す。

(1)学ぶ者としての姿勢・態度の確立

① 基本的生活習慣の確立（常にワンランクアップの意識を持つ）
② 積極的な授業態度・姿勢の確立（予習・復習の習慣化と探究の意欲）
③ 家庭学習の定着と学習時間の確保（希望進路を意識した学習への取り組み）
④ 図書館および学習室等の積極的活用

(2)教育に携わる者としての姿勢・態度

① 学力の向上を目指す方策の企画と実施（教育改革を見据えたアプローチ）
② 学校目標を見据えた指導の工夫・改善（国際理解・授業評価の活用を改善のPDCA）
③ 物事への意欲を高めさせる積極的体験の機会の提供
④ コンプライアンス意識の徹底と効率的な時間の活用

(3)生徒の希望する進路の達成

① 「みやぎ志教育」の推進
② 高い目標の継続と実現に向けた取り組み
③ 総合的な学習（探究）の時間及びホームルーム活動の充実
④ 課外授業等への積極的な取り組みと模擬試験への丁寧な対応

教育目標	進展する国際化社会の中で，広い視野と高い識見を持ち，心身ともに健康で積極的に自己実現を図り，将来国家・社会並びに世界のために貢献できる人間を育成する。		
校　　訓	進取創造　　自主自律　　誠実協和　　強健不撓		
教育方針	1. 広い視野と柔軟で創造的な考え方と進取の精神を育てる。 2. 自主・自律の態度を伸ばし，公正な判断力と責任感を涵養する。 3. 誠実さを人間関係の基本とし，相手の立場に立って理解しようとする態度を培い，協調と奉仕の心を育てる。 4. 強健な身体と不撓不屈の意志を持って勤勉に努力する態度を育てる。	目指す学校像	生徒の学ぶ者としての姿勢・態度がしっかりしている学校 英語教育と国際交流・国際理解教育に力を入れている学校 生徒が明るく生き生きと生活している学校 生徒の希望する進路を実現する学校 開かれた学校づくりを推進している学校

EAST　PLAN　12　（今年度の具体的数値目標）

e-メッセージ（生徒・保護者・職員）の100%登録。【総務】	海外研修プログラム参加者20名以上【国際】
学習状況調査で，「ほとんどの授業がよく理解できる」，「理解できる授業の方が多い」が70%以上。【教務】	英語科クラス在籍中に準2級以上が20名、2級以上が10名、準1級が2名以上をめざしたい。
課外講習の参加者150名以上（1・2年），　国公立大学現役合格者30名。【進路】	①出席率95%以上②模試平均偏差値50以上③学校生活満足度80%【1学年】
①交通事故0件　②警察によるレッドカードの交付(指導)　年間50件以内　③生徒による学校行事満足度（充実度）80%以上【生徒指導】	①出席率95%以上②模試平均偏差値50以上③学校生活満足度80%【2学年】
図書館の利用促進を図り，全生徒が各自，年間3冊以上の読書を目標とする。【図書】	①進路達成率95%以上　②国公立大志望者合格達成率25%以上　③学校生活満足度80%【3学年】
各種検診の再検率の向上を図る【保健厚生】	電気代・水道代の縮減（前年比）に努める。【事務】

今年度重点目標達成のための取組

評価分野	目標(評価)項目	目標達成のための具体的方策や方向性	達成度（自己評価）	改善の方策や方向性	学校関係者評価 学校関係者からの意見・要望・評価等
(1)学習指導	学ぶ意欲を引き出し，学力を身に付けられるような授業実践	①年2回の校内授業研究月間の実施と，授業力向上支援事業・授業改善研修会・授業構成法講座の活用，②生徒による授業履修度評価を適切な時期に実施し，教科会で情報を共有し活用，③年4回の学習状況調査を実施し，調査結果を各学年で活用，④漢検題，課題テスト，考査対策通問，成績上位者・下位者への指導，日頃の予習・復習と連動した授業の実施，⑤ICT機器の活用に関する情報提供及び研修会の実施，⑥一芸教養⑦学習習慣の定着指導(朝読書・課題・カクテスなど)⑧1学年1学期の学習習慣の定着指導(朝読書・課題，考査対策通問)⑨スタディサプリを中心とした成績向上希望者指導(⑤②③学年)⑩レベルアップ学習会やスタディサプリを使った希望者対象の成績向上部活引退後の受験勉強への切り替え支援(課外講習や進路合宿を中心に)⑪定期的な面談の実施による希望や適性の明確化(⑥、⑦～⑩3学年)	B (S)	【方向性】ICT機器(各教室に携帯対応の黒板、プロジェクター、ipadの整備やコミュニケーションツールとしてGoogle Classroomの導入に伴い，新しい授業づくりに取り組む。校内授業研究月間（年2回）を引き続き行い，生徒の実態を把握し，興味・関心を抱かせる授業づくりや，アクティブラーニングを積極的に取り入れた研究授業に各教科でテーマを設け実施する。 【方策】ICT機器の活用に関する情報提供及び研修会を引き続き実施する。確かな学力を身に付けさせるための指導については，各学年や教科を中心に，課題やトクテスト，朝学習，成績上位者や下位者を対象とした学習会や補習など，引き続き実践する。定期考査3週間前からの準備の呼びかけを行い，学習意識の高揚を図る。	教室にプロジェクタ等が設置され，ICT機器の活用が広がったとはすばらしい。今後ipadが整備されたら予定であるとの報告があり，今後も幅広く活用してもらいたい。文学の授業では，Google Classroomを使用し，使い勝手が良かったので高校でもぜひ活用してほしい。
(2)生徒指導	基本的生活習慣の確立	①遅刻回数による段階的な指導（家庭との密接な連絡，早期個別面談指導），②寄僕指導の徹底，③部活動・委員会主導による積極的な挨拶運動，④継続的な声がけと，教員による共通理解の下の指導，⑤生徒主体の活発な部活動を行うための定期的な指導（部長会），⑥学校行事，委員会活動の主体性を活かした取り組みを推進に つけ，⑦家庭や学校以外の人との関わりを推進に つけ，⑧交通安全講習会や継続的な通学マナーアップ指導による交通安全指導，⑨全校集会による学校生活全般についての一斉注意喚起，(①～⑤生徒指導)⑩登校指導(挨拶・遅刻防止・頭髪服装指導)，⑪授業や集会などで外部前行動，(⑩⑪1学年)⑫登校指導(自転車マナー、遅刻防止、頭髪・服装指導)，⑬遅刻、早退が頻繁の生徒に対する早期個別面談指導、⑭挨拶、服装、身だしなみの日常的な指導⑮部活動，学校行事，委員会活動の励行，(⑫～⑮2学年)⑯登校指導(挨拶，遅刻防止，頭髪・服装指導)，⑰部活動，学校行事，委員会活動の励行，(⑯⑰3学年)	A (S)	【方向性】生徒の生活習慣についての意識をさらに向上させ(参考：交通事故件数は横ばい，遅刻数は減少)，頭髪，服装，遅刻，挨拶等は多方面からの指導を継続する。 【方策】新入生オリエンテーション等初期指導の充実，規定・心得の確認と指導の徹底，朝の挨拶，遅刻防止，頭髪・服装指導，⑤遅刻、早退が頻繁の生徒に対する早期個別面談指導、⑥挨拶、服装、身だしなみの日常的な指導(担任指導⇒学年生徒指導部指導⇒学年主任指導⇒生徒指導部指導)を実施する。	交通事故の発生件数が昨年度と今年度が1ずつ増えている。遅刻数は今年度と今年度が同じ件数だったとの報告があった。遅刻が減っているのは，学校の指導がきちんと行き届いているからではない。
(3)進路指導	進路目標の明確化に向けた適切な指導	①3年間を通した体系的な進路指導（志教育，キャリア教育，各種ガイダンスなど）を進路ラジパスに沿って行うことにより，生徒の進路目標の達成を目指す。②模擬試験の有効活用（事前指導を通した意識付け・結果分析による生徒の学習内容理解度の把握），課外講習の充実化（1・2年生の進路講習参加者増加，3年生に対する課外講習の時間確保）により，生徒の進路目標達成に必要な学力の向上を図る。③総合的な学習・探究の時間などで論理的思考力を育成し探究活動を拡充し，情報収集力，情報分析力や課題発見・課題解決力，新たな価値を創造していくための能力を育成し，自己の生き方を考えさせる。④進路研修に関するガイダンスに参加し，生徒が進路に関する情報を収集し，教員間で情報を共有を図るとともに，新入試制度に関する対応策について検討し実践していく。⑤学習状況調査や面談を通して生徒の進路意識を把握し，個々の生徒に応じて適切な情報の提供やアドバイスを行う。(①～⑤進路指導部)⑥文理選択を実施するにあたり，系統的な指導を行い，生徒の進路意識の啓発を図る。⑦校外の体験型講義に参加させることで，大学で学ぶ内容を明確にし，早期の進路決定につなげる。⑧様々な分野の職業人を招聘し，講義を聴くことで職業意識を高める。(⑥～⑧1学年)⑨オープンキャンパス，夢ナビライブへの参加，地域における問題発見学習の実施，⑩二者面談、三者面談の実施による生徒個々の進路目標把握と適切なアドバイス，(⑨⑩2学年)⑪志望進路先となるオープンキャンパス，大学等説明会への参加と聞き分野に対する問題意識の醸成，⑫進路ラジパス，各種進路ガイダンスの有効活用，⑬AO推薦入試対策のための志望理由書作成指導，面接指導(⑨～⑬3学年)	A (S)	【方向性】ICT機器等を活用した進路行事等の検討，各学年の核となる「総合的な探究の時間」の実施，高大接続改革に関する情報を収集し適切な進路指導に つける。 【方策】進路資料を活用(進路の手引きや進路ラジパスなど)し，各種ガイダンスのオンライン実施等時期に応じて生徒の意欲を喚起させるため，3年間を通した系統的な指導を行う。学年や教科での分析や検討会を実施し，各種模擬試験の繁忙や・連続性に配慮する。	コロナの影響で進路行事が中止になった。変更を余儀なくされたからということだった。高大接続改革に関する情報を収集し適切な進路指導に つけるとのこと。 コロナの影響で進路行事が中止になった。変更を余儀なくされたからということだった。高校生活の中でも1年生の生徒が非常にがんばっているとの報告があり良かった。 また，今回の入試に関する情報収集と分析を行い，下級生への指導に生かしてほしい。
(4)教育相談	教員やカウンセラーの必要な時に相談に応じる体制	①カウンセリング利用が定着しつつあるが，「カウンセラー便り」6回等を通じ，更なる利用を呼びかける。②カウンセリング委員会・教育相談委員会の連携を図り，更に様々な相談に対応できるように各学年に担当者を配置しスムーズに「ケース会議」等を開催する体制を整える。③保健便り，PTA総会資料等を通じ，教育相談について，保護者への周知徹底を図る。(①～③保健厚生部)④カウンセラー便りを活用し，カウンセリングについての理解を深める。(④全学年)	A (S)	【方向性】年度末カウンセラーに数多く接続できたため，さらに利用促進を図る。 【方策】興護教諭・担任等からのカウンセラーにつなぐケースが多いため，eメッセージ等配信を増やす等，さらに気軽に利用できるように工夫する。	生徒・保護者・教職員の3者とも教育相談に関する学校評価結果が過去3年間で最も高かったとのこと。eメッセージでの情報提供が効果的だったため，今後も継続してほしい。
(5)部活動	部活動に対する活発な取組	①新入生の部活動全員加入を徹底執行部のバックアップ体制の強化，②部長会主導による規像ある活動の徹底，③部活動施設・設備等の調査及び整備充実のサポート，④部活動の積極的参加を呼びかける。⑤各種大会結果等について保護者へPTA会報や HPを通じて通知する取組。(①～⑤生徒指導部)（④1・2学年）⑥部活動を最後までやり抜く指導(⑥3学年)	S (A)	【方向性】部活動に積極的に取り組む生徒は，学習に対しても高い意識と継続性を発揮できる傾向にある。入部した部を三年間続けさせるように働きかけ，生徒主体で活動できる指導を心がける。 【方策】顧問会・執行部主導による活性化を図る。	部活動がイライラ・ピリピリ感を緩和に貢献し，部活動指導に当たっていると的確な報告だった。全国大会入賞等部活動で成果を挙げているのはすばらしい。
(6)学校行事	有意義な学校行事の取組	①完全な海外研修プログラムの定着(①国際部)②生徒会，委員会の活性化による「リーダーの育成」(②生徒指導)③行事に積極的に取り組むことで，クラスの役割を自覚させ，東高生としての誇りを持たせる。(③1学年)④学校内外の行事に積極的に取り組み，一体感を体験することで，東高生としての自覚と誇りが持てる指導を行う。(④2学年)⑤行事の目的を理解させ一体感を体験することで活気ある生活をつくり，進路目標達成の原動力とする(⑤3学年)	C (S)	【方向性】生徒会、各委員会が主体の行事の計画・運営をさらに推進する。生徒が主体的に行事に積極的に取り組むことで，より高い充実感が得られるようにする。 【方策】生徒会執行部の人数が減少していることから，今後も継続してリーダー育成を図る。	コロナの影響でふかい自由記述欄への生徒・保護者の記載に厳しい内容のものがあった。安全を守るための学校側の工夫がなかなか生徒・保護者に伝わっていないのではないか。感染予防をなぜ行う事が実施をするのかに，たいへんご苦労していると察する。
(7)特色ある学校	地域や伝統，目指す学校像などに基づいた特色ある学校づくり	①1学年では，特にSDGsを柱とした総合的な探求の時間の充実を図る。②グローバルウェークの充実と異文化理解の態度の育成(①②国際部)③英語科講演会，英語科合宿の充実，④スピーチ・英作文等の各種コンテストの奨励(③④英語科)	B (A)	【方向性】1学年「総合的な探求の時間」の継続的に充実化を図る。グローバルウィークについては，コロナウイルス前の充実した内容に戻す。英語科全般は，実施時期や内容を刷新する。 【方策】防日活各機関的に受け入れ，オンライン交流等の充実化を図る。	コロナの影響を大きく受けた部分だと察する。オンライン交流（研修も含む）等ピンチをチャンスに変える」取り組みはすばらしい。今後も拡充してほしい。
(8)防災教育	災害・非常時の避難方法や連絡方法の徹底	①生徒の防災意識向上につながる防災訓練の実施と防災マニュアルの精査を行う。②eメッセージの登録率の向上と，運用方法の改善を図る。③規訓練や研修会を行い，命を守るための大切さを徹底する。④危機管理マニュアルの周知徹底により危機の未然防止に取り組む。⑤体育館で行われる式典等の諸行事において，避難経路，避難方法を計画する。(①～⑤総務部)⑥各種防災訓練に取り組ませることで，命の大切さの指導を徹底する。(⑥全学年)	S (S)	【方向性】eメッセージの積極的な登録の呼びかけを引き続き行う。危機管理マニュアルの点検を継続する。式典・諸行事において，災害時の避難方法・経路の周知を継続する。	防災に関する項目で学校評価結果が高く出ている。eメッセージの発信とより生徒・保護者に情報が伝わっており，今後も継続してほしい。
(9)開かれた学校	学校情報の適切な発信	①学校ホームページの充実，②PTA会報「しおかぜ」の紙面の充実，③仙台東高校カレンダーの充実，④ホームページ，会報以外の情報発信の可能性を探る。(①～④総務部)⑤地域の小学校や市民センターと部活動・英語科活動との連携を行う。⑥オープンキャンパス時の英語科紹介PR等の充実を図る。(⑤～⑥英語科)⑦学年便りを定期的に発行し，保護者への情報発信に努める。(⑦全学年)	A (A)	【方向性】臨時休校等eメッセージで情報を発信する機会が多くなったため，確実に情報が伝わるように工夫，情報発信がより良く行われるように適切な利用方法を模索する。PTA会報「しおかぜ」の編集に引き続き保護者の意見を生かしていく。 【方策】eメッセージの新年度の登録更新を早い時期から呼びかけ，より多くの生徒・保護者に登録してもらう。	学校ホームページの内容を充実させるとの報告があり，どんどん行ってほしい。生徒は保護者に普段の様子を見せたがらないのだが，保護者は生徒の普段の学校生活の様子に知りたいもの。情報発信を続けてほしい。
(10)PTA活動	PTA活動に対する学校と保護者との連携	①PTA総会，学年研修会，キャンパス見学会，東風祭など，PTA役員，役員以外の保護者と学校との協力体制を強化する機会を，現状をふまえより良い助力を検討していく。②PTA会報，ホームページ，e-メッセージによる情報発信を，適時，行う。③学校・保護者が協力して街頭指導を行うことで，生徒通学時の安全意識の向上を図る。(①～③総務部)	B (S)	【方向性】PTA総会の「紙上開催」など，例年とは異なる形式で行事を行わざるを得なかったことから，さまざまな状況を踏まえ，より良い形でPTA行事が持てるよう努力する。PTA行事の案内等について，適切に保護者に情報が伝わるように工夫する。 【方策】保護者への文書発出の他，eメッセージの併用などを継続する。	体育館改修工事に伴う外部施設での部活動実施に，部活動等後援会から補助金が出たり，学校と保護者との連携がうまく機能したと思われる。
(11)施設設備	施設・設備の整備に対する取組	①定期的に校舎内外の点検を行い，危険箇所及び破損箇所の早期発見に努めるとともに，速やかに安全対策等を講じ，事故防止に努める。②大規模修繕等については，生徒・保護者・教職員の要望を検証し，教育庁施設整備課との調整により，計画的に推進する。	B (A)	【方向性】事故防止に努め，修繕が必要な箇所については，県教育庁側当課と随時連絡を取りながら必要な予算を確保し速やかに対応している。 【方策】定期的に校舎内外の点検を引き続き行う。職員全員で校舎内外の安全点検を実施する。	普通教室エアコン設置工事に関する情報が入り，快適に学習でき環境が整ってきている。今年度熱中症対策で冷風扇等を設置したとの報告だったが，学年集会等で使用する大教室にもエアコン設置がなされれば更に快適に過ごせるのでは。
(12)いじめ問題	いじめ問題の早期発見・取組方針の保護者との共有	①定期的なアンケートの実施と迅速調査，②全ての教員による「あふれる環流」での観察と日頃からの声かけ指導，③いじめは絶対に許さないという毅然とした指導を さまざまな場面で取り組む。④分掌内や各学年との情報の共有の連携と対応。⑤教育相談委員会の取組の徹底。⑥スクールカウンセラーの機能的な活用促進。⑦「学校いじめ防止基本方針」の共通認識を図り，全職員でいじめ防止に取り組む意識の徹底を図る。⑧職場マタハ教育もLINE等を活用して行う。(①～⑧生徒指導部)⑨常日頃からの観察と声かけ，⑩二者面談・三者面談による情報収集と保護者への連絡徹底。⑪常日頃からの観察と声かけ，(⑨⑪2学年)⑫二者面談・三者面談による情報収集と保護者への連絡徹底。⑬定期的なアンケートの実施。⑭モラル教育の充実。(⑫～⑭3学年)	A (S)	【方向性】「学校いじめ防止基本方針」に則り，保護者，教職員ともに共通認識を図り，早期発見，早期対応を継続する(参考：年度末調査結果5)。 【方策】定期的なアンケート調査を実施し，日常生活において全教職員での観察及び情報交換を行う。二者面談の実施により生徒の変化を見逃さない対応をとがける。	高校生は年齢的にも自分らからいじめ被害に遭っていることを言い出すのは難しいため，家庭で制服の破れや金遣いの乱れ等に気づいた際に，学校に相談しやすいような関係づくりをお願いしたい。
(13)保健指導	自主的に健康管理ができる指導	①全ての生活の基盤は，心身の健康保持・増進にあることを自覚させ，規則正しい食生活と十分な睡眠の確保を呼びかける。②授業，保健便り，クラスの健康観察等を通じ，自主的に健康管理や正しい行動選択と実践ができるよう啓発する。③保護者の協力を得ながら生徒が休まず登校できるように指導する。(①～③保健厚生部)⑤基本的生活習慣の定着指導。(全学年)	A (A)	【方向性】「身体的」自己の健康管理についての保健室のサポートを継続する。「心の健康」に関しては，生徒が自身で「心の健康」を管理・思考できる取組を行う。 【方策】「心の健康」については，維持するのが難しい生徒が多いため，今後とも保健だより等で様々な情報提供を行う。	熱中症対策としてごくごくタイムを設けたり，9月まで校内での軽装を認めたり様々な対策を行っている。授業中の水分補給に関する自由記述については，すでに対応済みとの報告だった。自主的な健康管理は大人でも難しいもの。指導を継続してほしい。
(14)読書指導	生徒の読書活動をサポートする取組	①図書館の積極的利用を図り，年間貸出冊数3,000冊を目指す（H31 2,310冊，H30 2,710冊，H29 3,648冊）。②年3回「朝読書」期間を設定し，読書に取り組ませるようをつくり，主体的に読書をする生徒を増やす。③新入生対象の「図書館利用オリエンテーション」を実施し，活用案内を配付することにより，図書館が身近なものとなるように努める。④「年間多読賞」を継続し，読書への興味・関心を高める。⑤大学の小論文に出題される新書などを紹介するなど，進路目標達成につながるような読書を促す。⑥図書科を1にのる教科と連携して昇文に慣れ，読解力を養成する。(①～⑥図書部)⑦英語多読教材を整備し，活用する。(⑦英語科)⑧朝読書週間を活用し，毎日の読書を推進する。(⑧1学年)⑨朝読書週間及び図書館を利用を促し，読書活動を推進する。(⑨2学年)⑩総合学習関連図書の購入(⑩3学年)⑪ビブリブリーによる各クラスへの書籍配置を実施，読書活動を推進する。	B (A)	【方向性】図書館の積極的利用を図る(参考：平成27年6月から平成30年1月までの貸出冊数1,626冊)。読書活動を次年度以降も推進する。デジタル教材での読書への移行の検討する。 【方策】各教科と連携した読書整備(今年度は英語多読教材や総合的な探究の時間で使用する資料を整備し，ビブリブリーによる各クラスへの書籍を配置する。	朝読書の取組はさても良いので，今後も継続してもらったら，図書館の蔵書に，大学入試に関するものや将来役立つ分野の本が増えれば，更に利用者は増えるのではないか。
(15)総合満足度	充実した学校生活のための取組	①入学式，全薬式などで生徒・保護者にとってかけがえのない行事やPTA主催行事の準備に対して配慮を忘れない，②「学校防災計画」に示した緊急時対応の検証を要に行う。(①②総務部)③個人面談の充実により，目的意識を涵養し，充実した高校生活作りを支援する。(③1学年)④文武両道の推進，⑤学校行事などへの積極的な取組を指導する。(④⑤2学年)⑥学習を生活の活力に，生活を学習の活力にするための健全な高校生活の支援。(⑥3学年)	B (A)	【方向性】校内行事が生徒にとって重要な節目であることを意識付ける。 【方策】感染防止の観点から現状方法で校内放送で行う場合でも，生徒の意識付けのため，しっかりと実施する。「学校防災計画」については，継続的に検証する。	コロナ感染予防のため，入学式や開講式等大切な行事では，礼をしたり姿勢を正すのに必要な間をゆんと取って放送で実施する等工夫が見られる。
			達成度・保護者と生徒の学校評価の適合度を平均したものです。 自己評価：教職員の自己点検・自己評価の適合度によるものです。		

保護者・生徒の学校評価及び教職員の自己評価アンケートによる結果
S（1　よくあてはまる+2　だいたいあてはまる)580%以上)　A（1　よくあてはまる+2　だいたいあてはまる)580～90%未満)　B（1　よくあてはまる+2　だいたいあてはまる)570～80%未満)　C（1　よくあてはまる+2　だいたいあてはまる)560～70%未満)　D（1　よくあてはまる+2　だいたいあてはまる)560%未満)